音楽療法プログラム例

〈目的〉　　　　　　　　　　　　　　〈効果〉

1. 挨拶
2. 吹きコマ（発声）…発声・発語の準備体操として息を吹きかけ、コマを回す。
3. 呼名（言語）…自分の名前をリズムで口に出し、発声、発語を促す。
4. 大きく「あ」（言語）…メガホンを使って発声、発語を促す。
5. 色合わせ（認知・微細運動）…カラーエッグを使い、色の認知の確認、指先を

使ってエッグを穴に入れることによる指先の微細

運動

1. 真似っこ（認知・社会性）…ロリポップドラムで療法士のリズムを真似て叩くこ

とにより認知機能の向上、模倣によって人に合わせ

る社会性が育つ。

1. ストレッチ（粗大運動）…伸縮性バンドを使い、腕を伸ばす、曲げる、上にあげ

　　　　　　　　　　　　る等の動きで運動機能を高める。

1. バランスボール（粗大運動）…音楽に合わせてボールに座って跳ねることにより、

　　　　　　　　　　　　　体幹が鍛えられたり、発散効果がある。

1. フラフープ移動（認知・粗大運動）…フラフープの輪の中に入り、指示（前後、左

右、上下）された場所に動くことにより、認　　　知の確認、向上につながる。さらにリズムに合わせて動くことにより運動機能を高める。

10.ゴーストップ（社会性・粗大運動）…音楽に合わせて動き、止まるとフラフープの中に入る。他児の動きを見たり、音をよく聞くことにより社会性が育つ。音楽が止まった瞬間にフラフープの中に入るので瞬発力も促される。

11.合奏（社会性）…様々な楽器を使い音楽に合わせて合奏することにより、人に合

わせるという社会性が育つ。

12.クールダウン…最後は落ち着いて終われるように、オーガンジ（布）の上に風船

を起き、静かな音楽に合わせて上下左右にゆっくり動かすことに

より気持ちが安定する。

13.挨拶